

# あいち農産物生産流通レポート

2021年7月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 東京都中央卸売市場における2020年産の愛知県産農産物の動向	(東京事務所) 1
・ 「あいち食育いきいきプラン2025」を作成しました	(食育消費流通課) 3
◎ 東日本情報	
・ トマト類の品質検討会が開催されました	(東京事務所) 5
◎ 西日本情報	
・ 「いいともあいち運動」の取組について	(食育消費流通課) 7
◎ フラワーページ	
・ 日本で初めての画像せりの取組について	(東京事務所) 8
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	9
・ 名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し	10
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の7月の見通し(県内市場)	22

※今月、「地域トピックス」はありません。

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400



## 東京都中央卸売市場における2020年産の愛知県産農産物の動向

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2020年産（1月から12月まで）の東京都中央卸売市場（9市場）での本県産農産物の総取扱額は284億円（シェア4.5%）で47都道府県の中で第8位でした。

なお、本県産農産物の内訳は野菜が158億円（前年対比91.2%）、果実が19億円（前年対比112.2%）、花きが107億円（前年対比95.2%）となりました。

### 1 野菜の動向

野菜の総取扱額は3,694億円で、前年をやや上回り（+3.6%、129億円増）、本県産のシェアは4.3%でした。

本県産のキャベツは、1～2月は潤沢な入荷により単価が低迷し、3月以降は家庭内需要の高まりもあって高値で推移しました。しかし、台風等の被害がなく作柄良好で10月下旬以降は再び単価が低迷したため、取扱額は前年をかなり下回りました。トマトは、1月以降、入荷量の少ない状態が続く中で単価は堅調な推移をし、11月以降は安値となったものの、取扱額は前年並となりました。ブロッコリーは、前進出荷による3～4月の入荷減により単価が高騰したものの、それ以外の期間は順調な入荷が続いて全般的に安値となり、取扱額は前年を大幅に下回りました（表1）。

表1 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（野菜）

（単位：千円）

品目	2020年	前年対比	順位(シェア)*	上位産地
野菜合計	15,820,596	91.2%	7位(4.3%)	①茨城、②千葉、③北海道
キャベツ	3,893,994	93.5%	2位(20.2%)	①群馬、③千葉
トマト	2,665,383	100.9%	3位(9.4%)	①熊本、②栃木
ミニトマト	2,387,541	91.6%	2位(16.3%)	①熊本、③北海道
おおば	2,708,117	104.3%	1位(86.8%)	②茨城、③大分
ブロッコリー	811,200	65.9%	6位(6.2%)	①北海道、②香川

\* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

### 2 果実の動向

果実の総取扱額は1,813億円で、前年並（+1.8%、31億円増）となり、本県産のシェアは1.1%でした。

本県産のいちじくは、単価は前年をやや上回るも、長梅雨等の影響で全体的に入荷量が少なかったため、取扱額は前年をやや下回りました。いちご類は、1～6月は天候の影響で入荷量が少なく、10～12月は高温で花芽分化が遅れるなどし、取扱額は前年をかなり下回りました。かき類は長梅雨や高温干ばつの影響で入荷が減少したものの、ひょう害のあった前年比では、取扱量が多く単価も高かったこと、メロン類は新型コロナウイルス感染症の影響で直売用が市場出荷されたことから、これらの取扱額は前年を大幅に上回りました。本県産の他の品目も含めた果実全体の取扱額は前年をかなり上回りました。（表2）。

表2 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（果実）

（単位：千円）

品目	2020年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
果実合計	1,926,845	112.2%	17位(1.1%)	①青森、②栃木、③愛媛
みかん類	429,646	112.2%	8位(1.5%)	①愛媛、②静岡、③長崎
いちじく	440,335	96.0%	1位(52.9%)	②和歌山、③福岡
かき類	476,959	146.6%	6位(7.6%)	①和歌山、②奈良、③福岡
いちご類	257,497	87.5%	11位(0.8%)	①栃木、②福岡、③茨城
メロン類	83,272	184.4%	10位(0.9%)	①茨城、②静岡、③熊本

\* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

### 3 花きの動向

花きの総取扱額は756億円で、前年をかなり下回り（△7.9%、65億円減）、本県産のシェアは14.1%でした。

本県産の切り花及びらん鉢は、全体的に新型コロナウイルス感染症の影響を受け単価は前年を下回り、菊類・カーネーション類・らん鉢は、入荷量も減らしました。その一方で、観葉植物はコロナ禍での園芸需要の高まりを受けるなどして単価が前年を上回り、鉢花も入荷量を増やしました。

本県産の花きの取扱額は前年をやや下回りました。（表3）。

表3 東京都中央卸売市場における本県産主要品目の取扱額（花き）

（単位：千円）

品目	2020年	前年対比	順位(シェア)*	国内上位産地
花き合計	10,651,938	95.2%	1位(14.1%)	②千葉、③埼玉
切り花計	7,931,702	93.5%	1位(15.8%)	②千葉、③静岡
菊類	5,423,216	93.9%	1位(39.3%)	②沖縄、③茨城
ばら類	838,477	97.2%	1位(17.7%)	②静岡、③山形
カーネーション類	281,494	91.1%	4位(5.9%)	①長野、②千葉、③北海道
観葉植物	1,197,483	104.9%	1位(34.4%)	②静岡、③鹿児島
鉢花	541,487	104.2%	2位(12.7%)	①埼玉、③千葉
らん鉢	351,831	86.8%	5位(8.9%)	①埼玉、②千葉、③山梨

\* 順位は全国順位。シェアは外国産を含めて算出。

## 「あいち食育いきいきプラン2025」を作成しました

食育消費流通課

愛知県では、食育を総合的かつ計画的に推進するため、愛知県食育推進会議（会長：知事）を設置し、食育基本法第17条第1項で規定する愛知県食育推進計画を作成し、食育を県民運動として推進しています。

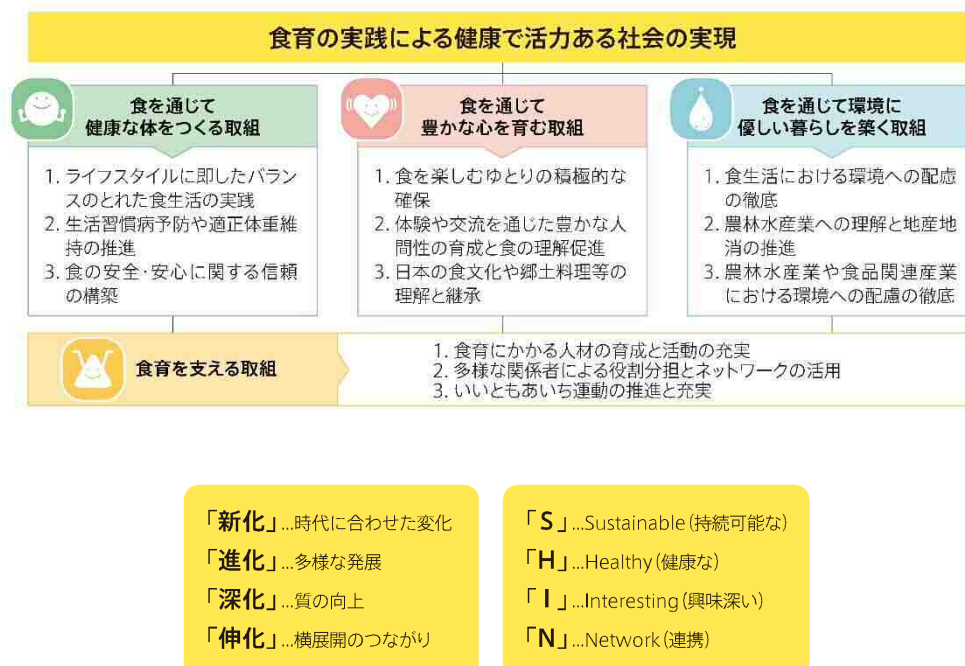
2006年11月に第1次計画を作成、以降5年ごとに見直しを行い、2021年3月に第4次愛知県食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン2025（以下、「プラン」という。）」（計画期間2021～2025年度）を作成しました。

### 1 プランの位置づけ

- ・プランは、県民一人一人が食の大切さを理解し、主体的に取り組むための指針です。
- ・プランは、あらゆる場所や機会において、食や教育、保健医療に関する各関係者が連携・協力して愛知県における食育に関する取組を総合的かつ計画的に推進するための基本とします。
- ・国の食育推進基本計画に基づく施策の推進を図るとともに、地域に密着した食育活動が推進されるよう、市町村食育推進計画と密接に連携して取組を進めます。

### 2 あいちの目指す食育～目指す姿と取組の方向～

- ・「食を通じて健康な『体』をつくる取組」、「食を通じて豊かな『心』を育む取組」、「食を通じて『環境』に優しい暮らしを築く取組」に加え、「食育を『支える』取組」の4つの取組を推進し、食育の実践による健康で活力ある社会の実現を目指します。
- ・プランでは、これまでの取組を「継承」とともに、多様な主体同士の連携や新しい生活様式の実践、SDGs達成への貢献などを踏まえ、取組を「SHIN化」（新化・進化・深化・伸化）させ、食育の実践力を高めていきます。



### 3 取組の展開方法

・ライフステージと生活場面に応じた食育  
県民が心身ともに健康で豊かに暮らすために、乳児期から高齢期に至るまでのライフステージと生活場面に応じ、生涯を通じた食育を進めます。

・多様な関係者による食育の取組  
食にかかわる多様な関係者が各々の役割と特性を生かしつつ、相互に連携・協力し合い、県民の主体的な食育の取組を促します。



### 4 具体的な取組

#### 「おうちでごはんの日」の実施

愛知県では、「食育の日」である毎月19日を「おうちでごはんの日」とし、早めに帰宅して、家族や友人と一緒に食卓を囲むよう勧めています。



#### 「愛知県食育推進ボランティア」の活動

県が募集・登録し、食育に関する情報提供や活動の橋渡しなどの支援を行っている個人やグループで、県内各地で様々な食育の推進活動を自主的に行っています。

#### 「いいともあいち運動」への参加

県内の消費者と生産者が相互理解や交流を深めたり、地産地消を深めることで、県民みんなで県の農林水産業を支えていこうという愛知県独自の取組です。

- 「いいともあいち」には、
- 1 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
  - 2 Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ) =もっと愛知県産品を食べよう(利用しよう)の意味が込められています。



### 5 食育の取組を進める「20の数値目標」

20の数値目標のうち、主な目標は以下のとおりです。

- ①食を通じて健康な体をつくるための目標  
「朝食を毎日食べる」、「適正体重のコントロール」、「歯や口の健康維持」や「野菜摂取」等
- ②食を通じて豊かな心を育むための目標  
「家族や友人と一緒に楽しく食事をする」、「農林漁業体験学習への取組」や「郷土料理の伝承」等
- ③食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標  
「無駄や廃棄の少ない食事づくり」、「学校給食における県産食品の利用」や「県産農林水産物の優先購入」等
- ④食育を支えるための目標  
「食育活動を助ける『食育推進ボランティア』から食育を学んだ人や学校等との連携」や「『いいともあいち運動』を知っている人」等

### 6 その他

- ・第4次愛知県食育推進計画「あいち食育いきいきプラン 2025」が御覧いただけます。  
愛知県のHP <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shokuiku/plan2025.html>
- ・愛知県の食育のいろいろな情報が御覧いただけます。  
「食育ネットあいち」 <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>

## トマト類の品質検討会が開催されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

首都圏の卸売会社 11 社の担当で構成する京浜市場愛知県野菜連絡会トマト・ミニトマト研究会（以下「研究会」という。）は、冬春トマトの出荷シーズンに、定期的に品質検討会を開催しています。2021 年 5 月 13 日（木）に各産地のトマト類（大玉トマトとミニトマト）について外観や食味などを査定するとともに、情勢などについて意見交換しました。

### 1 品質検討会

研究会は、毎シーズン、出荷序盤の 12 月を皮切りに、厳冬期の 2 月と暖候期の 4～5 月の計 3 回、品質検討会を開催しています。

例年は会員だけでなく愛知県内産地の生産者も参集されますが、今回は緊急事態宣言中であったため産地からは参集せず、6 社の会員が参加しての開催となりました。

#### (1) 品質検討結果

##### ア 大玉トマト

大玉トマトは愛知県内産地の 6 サンプル、県外産地の 3 サンプルの計 9 サンプルを対象に、着色や玉揃い等の外観、裂果や軟果等の品質を合議によって査定した後、糖度と食味査定を行いました。食味は、各箱の中から着色が最も進んだ赤色の濃いものと、最も赤色の薄いものを選び出し、5 段階の指数で査定しました。



品質査定の様子

なお、食味査定の際は、昨年から産地名を伏せています。

結果は、産地によって外観や品質に差がみられ、特に色揃いに大きな差がみられました。糖度（Brix%）はいずれの産地も 5 度前後、食味は各産地 2 点台から 3 点台と大きな差はありませんでした（表 1）。「全般的に黄変果※が出始めており、

表 1 大玉トマトの品質査定の結果

産地名	重量 kg	玉数 個数	外 観				品 質						外観及び品質に関するコメント	糖度	食味 指数平均		
			着色	色揃	玉揃	形状	花落	病果	裂果	傷果	空洞	軟果				銀粉	
県内A	4.1	20	2	○	○	○							2		黄変果 6 ※等階級：AL	5.9	2.8
			3														5.3
県内B	4.5	18	1	△	○	○							2	4		4.8	2.8
			3														5.2
県内C	4.0	20	1	△	○	○		1	1				2		黄変果 4、 チャック 1	4.7	3.3
			4														5.0
県内D	4.0	20	2	×	△	×	2		1				5		ヘタ周りの 圧せ？病果？ 5	4.8	2.3
			6														5.3
県内E	4.2	18	2	△	○	△									ヘタ周り黄色くなり そうな玉アリ	4.8	2.5
			5														5.5
県内F	4.1	20	2	△	△	△			1				12		黄変果 15、 チャック 1	5.1	2.8
			5														5.8
県外A	4.1	20	2	○	○	○	3	1							黄変果 14	5.2	2.5
			4														5.3
県外B	4.5	20	1	◎	○	○									黄変果（軽微） 2	5.8	3.5
			2														5.3
県外C	4.4	20	1	○	○	○									黄変果 4	5.4	3.0
			3														5.4

上段：赤目、下段：青目

上段：赤目、下段：青目

※調査方法及び記入上の注意

- 1 階級はBとして。
- 2 外観及び品質は、選果基準表に基づき評価する。
- 3 外観：着色は2玉（赤目1玉、青目1玉）を選果基準表の番号により評価する。色揃から形状は◎、○、△、×の4段階で評価する。
- 4 品質：花落から銀粉は個数をカウントして、特記事項をコメント欄に記入する。
- 5 食味：糖度は2玉（赤目1玉、青目1玉）を調査する。5段階指数（悪1～5良）で評価する。

味もボケてきている。後続産地への切り替わりを防ぎ、出荷の最後まで顧客に使ってもらえるよう、軟果、黄変果の発生に注意してもらいたい。」との講評がありました。

※黄変果：果実上部の肩部が赤く着色せず、黄色に変色した着色不良果

## イ ミニトマト

ミニトマトは愛知県内産地の5サンプル、県外産地の4サンプルの計9サンプルを対象に、着色や玉揃い等の外観、裂果や傷果等の品質を査定した後に、糖度測定と食味査定を行いました。

表2のとおり、外観や品質に産地間の差はほとんどありませんでしたが、糖度(Brix%)は6～7度台が多かった中で、それを上回る県内産地がありました。「色回りの良いものは食味も比較的良かった。愛知県産ではないがカビが散見されるところもあった。気温、湿度とも上がってくるため、今後注意して欲しい。」との講評がありました。

表2のとおり、外観や品質に産地間の差はほとんどありませんでしたが、糖度(Brix%)は6～7度台が多かった中で、それを上回る県内産地がありました。「色回りの良いものは食味も比較的良かった。愛知県産ではないがカビが散見されるところもあった。気温、湿度とも上がってくるため、今後注意して欲しい。」との講評がありました。

表2 ミニトマトの品質査定の結果

産地名	外 観				品 質				外観及び品質 のコメント	糖度	食味
	着色	色揃	玉揃	形状	色沢	病果	裂果	傷果 へた落ち			
県内A	2	○	○	○	○			1		7.4	○
	2									6.6	
県内B	2	○	○	○	○			1		7.6	○
	2									7.9	
県内C	2~3	○	○	○	○					7.5	○
	2~3									7.2	
県内D	3~4	○	○	○	○					8.3	○
	3~4									9.3	
県内E	2~3	○	○	○	○			3		7.3	○
県外A	2~3	○	○	○	○			2	軟果4つ混入	7.8	○
										7.5	
県外B	3	○	○	○	○				軟化玉混入	6.7	○
	3									7.1	
県外C	4~5	△	○	○	○					6.2	△
	4~5									5.9	
県外D	2~3	○	○	○	○			1		7.4	○
										4.6	

上段：赤目、下段：青目

※調査方法及び記入上の注意

以下の項目のサンプルについては、1ケースの中から上段右上1PK、下段左下1PKを用いる。  
ケース内の特記事項はコメント欄に記入する。階級は秀Mとする。

- 1 外観及び品質は、選果基準表に基づき評価する。
- 2 外観：着色は2玉（赤目1玉、青目1玉）を選果基準表の番号により評価する。  
色揃から色沢は○、○、△、×の4段階で評価する。
- 3 品質：病果からへた落ちは個数をカウントして、特記事項をコメント欄に記入する。

## (2) 情勢報告等

品質査定結果の協議後、市場情勢及び愛知県内外の産地情勢の報告がありました。

また、顧客への商談に向けてどのような情報が産地から出されると有用か、参考にすべき他産地の取組について意見交換されました。

さらに、前々日に大田市場において行った大玉トマトの黄変果の発生状況調査の結果について、「多くの産地で発生が目につく。」と報告がありました。

最後に、今回の結果を受けて愛知県内の各産地に対し、以前に作成した時期ごとに求められるトマト類の品質を参考にしてもらいながら、①大玉トマトは出荷の最後まで使ってもらうため、軟果、黄変果が発生しないよう求めていく、②ミニトマトは、裂果、軟果が少なかったため今後も品質の維持を求めていく、とされました。



黄変果の発生状況

## 2 黄変果について

黄変果は、5月頃から発生が目立ちはじめ、栽培中の果実に直射日光が当たり表面温度が高くなることが発生原因のひとつと考えられています。出荷時には症状がわかりづらく、輸送や保管の過程で着色が進むことで発生が顕著になります。

今後も大田市場での発生状況を随時調査し、産地に情報提供していきませんが、黄変果は商品価値が下がり、産地への信頼に大きく関わることから、産地での対策が求められます。



## 「いいともあいち運動」の取組について

食育消費流通課

## 1 いいともあいち運動とは

「いいともあいち運動」は、県民の皆さんに農林水産業の大切さを御理解いただき、「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒に本県農林水産業を支えていこうという取組です。また、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい（利用していただきたい）という、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

## 2 いいともあいち運動の主な取組内容

## (1) 運動の輪を広げ、県産農林水産物の認知度を高める

## ア いいともあいちネットワーク等の拡大

- ・生産者団体を始めスーパー、飲食店といった流通関係者、消費者団体等のネットワーク会員あてに「いいともあいちだより」を配信
- ・県ホームページ「いいともあいち情報広場」やFacebookで、会員の取組や新商品、店舗、イベント等の情報を広く紹介
- ・愛知県の農林水産業を応援していただける「いいともあいちサポーター」を募集し、メールマガジン「あいまる通信」を配信

## イ キャンペーン月間（11月）の取組の強化

- ・大手量販店における「いいともあいちフェア」の開催

## ウ 県産農林水産物を使った商品へのシンボルマークの表示

- ・運動の認知度向上のため、県産農林水産物及びその加工商品へのシンボルマーク「あいまる」の表示推進

## エ 県内外に向けた県産農林水産物のプロモーション

- ・SNS等を活用したイメージアップ情報の発信
- ・首都圏における知事トップセールス等の実施

## (2) 県産農林水産物の利用拡大

## ア いいともあいち推進店の登録推進

- ・県産農林水産物や加工食品等の販売や利用に力を入れる販売店や飲食店を「いいともあいち推進店」として登録

## イ 「愛知のふるさと食品コンテスト」の開催

- ・県内で生産された農林水産物を主な原材料に用いて製品化された加工食品を対象にコンテストを開催



シンボルマーク「あいまる」



いいともあいちフェアの様子



知事トップセールスの様子

## 日本で初めての画像せりの取組について

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

株式会社フラワーオークションジャパン（以下「F A J」）は2020年2月、日本の切花市場取引において初めて、画像のみでせりを行う画像せりを導入しており、コロナ禍によってリモートのせり参加者が増えています。

### 1 取組の経緯

これまでF A Jの切り花せりでは、商品をせり場に置き、せり人が箱から商品を取り出して買い手に見せながらせりを行う方法をとっていました。

しかし、商品が市場に到着してから配送されるまでの間、温度管理のできないせり場で保管されるため夏場の品質への影響が問題となり、産地から品質管理を改善するよう要望が上げられていました。

そこで、商品をせり場に置かない画像せりの導入に向けて、2019年7月にプロジェクトチームを立ち上げ、検討が進められました。現物と画像を併用する形での試行や仲卸や買参人等への説明会を経て、2020年2月に本格的に導入されました。

### 2 画像せりについて

画像せりでは商品が到着すると、専用のベルトコンベア式の撮影機械で自動撮影します。

せり場では、現物は見せず、買い手は会場の上下に設置したモニターを見ながら応札します。上のモニターには商品情報とともに現物画像が表示され、下には現物画像と開花時の様子のわかる見本画像が表示されます。せり人は会場のせりブースから商品の紹介やせりの進行をします。

画像せりの導入により、商品の品質管理徹底につながり昨年は夏場のクレーム件数が減ったとのことです。また、せり人が箱から商品を出し入れする作業等がなくなったことで、せり時間の短縮にもつながりました。

### 3 リモート取引での活用と今後について

これまでもインターネットを利用してリモートでせりに参加することができましたが、せり場のライブ映像を見ながらの取引のため、商品が見にくい等の課題がありました。

しかし、画像せりの導入によって、自宅や職場でも市場にいるのと変わらない条件で取引に参加できるようになりました。新型コロナウイルス感染症拡大で、テレワークが推奨されることもあり、利用者は増えているとのことです。

現在は、商品の現物写真は1枚となっており、商品説明等の情報提供の強化に取り組んでいくとのことです。



せり人

画像せりの様子（切り花）



現物画像

見本画像

モニターの表示内容



商品の現物を見せる鉢花のせりの様子

## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：アールスメロン）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
2年実績	1, 1 2 9	2 6 0 (2 3 %)	7 7 2	愛知 (5 1 %) 静岡 (3 7 %) 高知 ( 9 %)
3年見通し	1, 1 0 0	—	8 5 0	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>静岡、愛知、熊本からの入荷が中心となる。全ての産地で今のところ生育順調であり、大玉傾向で玉伸びもよい。ただ、東海地方は例年より梅雨入りが早かったため、愛知の出荷ピークである8月の旧盆における入荷量を確保できるか懸念される。            入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>		<p>産地や農協と出荷情報の共有を密に行い、販売に活かしていきたい。            消費者は大玉を求める傾向があるが、生産者には大玉にこだわりすぎず、適期収穫をお願いしたい。市場としては、高値で販売できるよう努力する。客離れがないよう、品質第一での栽培をお願いしたい。</p>		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：とうがん）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	愛知産	
2年実績	1, 8 8 9	4 3 4 (2 3 %)	1 6 7	沖縄 (2 6 %) 静岡 (2 1 %) 神奈川 (1 7 %)
3年見通し	1, 8 0 0	—	1 7 0	—
概要と見通し		卸売市場から産地への要望・提言等		
<p>愛知のほか、沖縄、静岡、神奈川などからの入荷となる。            前年は業務需要が低迷し、7月以降の愛知からの入荷量を減らした結果、総入荷量は令和元年をかなり下回った。            本年は沖縄の切り上がり及早まり、主力は静岡、愛知へと移る。愛知は5月下旬に入荷開始も、玉伸びが鈍く量を減らすか。            入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並となる見込み。</p>		<p>愛知県産は品質が高いため、これまでどおり、形や色を揃えるなど高品質の保持に努めて欲しい。            出荷時期について、産地リレーを円滑に進めるため、出荷期間を長くし、遅くまで出荷してもらいたい。            また、小とうがんに関し、売場の確保に向けて早めの出荷が望ましい。</p>		

名古屋・東京市場における青果物の7月の見通し

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	28, 282	252	257	266	267	長野 28%
	29年	29, 911	213	254	261	245	北海道 14%
	30年	29, 212	242	216	215	208	兵庫 12%
	元年	30, 842	222	215	246	265	青森 8%
	2年	30, 668	281	217	226	221	群馬 7%
	5ヵ年平均	29, 783	242	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	30, 000	217	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野、北海道、兵庫などから入荷する。産地の切り替わりで前半は数量減を見込む品目も見られるが、後半は概ね順調な入荷を見込む。また、4～5月の天候不順も入荷量に影響している。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
だいこん	28年	1, 349	121	147	133	101	青森 55%
	29年	1, 316	82	86	86	83	北海道 35%
	30年	1, 252	118	87	142	141	岐阜 6%
	元年	1, 528	75	75	85	72	長野 3%
	2年	1, 490	115	118	114	122	
	5ヵ年平均	1, 387	102	102	111	103	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1, 450	100	90	105	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。青森、北海道は高齢化や経費高騰等により作付面積は減少したが、生育は良好である。また、コロナ禍で消費は鈍いため、前年よりも単価安の予想。</p> <p>入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
にんじん	28年	1, 484	165	127	169	200	青森 52%
	29年	1, 539	98	113	98	88	北海道 46%
	30年	1, 514	157	130	176	161	中国 1%
	元年	1, 772	119	110	122	124	
	2年	1, 957	294	266	275	332	
	5ヵ年平均	1, 653	172	154	172	187	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1, 800	140	120	150	150	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>青森、北海道を中心に入荷する。前年は前段産地である岐阜が不作であったため価格が急騰したが、今年はスムーズな産地リレーを見込む。北海道は7月下旬から入荷の予想。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	28年	119,621	265	266	276	253	群馬 16%
	29年	125,225	226	233	227	218	長野 15%
	30年	117,735	269	250	266	292	茨城 11%
	元年	120,302	243	233	252	243	北海道 11%
	2年	114,925	305	285	294	333	青森 7%
	5ヵ年平均	119,562	261	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	121,000	255	—	—	—	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	群馬や長野の高冷地や、北海道など関東以北産地からの入荷が中心となる。一部品目でみられた4月の低温等による生育遅れは、その後の好天により回復。梅雨時期の天候次第の面あるも順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。						
	だいこん	28年	8,283	119	149	122	96
29年		8,891	76	83	71	74	青森 35%
30年		7,148	121	89	136	138	千葉 3%
元年		8,790	76	77	79	70	岩手 2%
2年		7,477	114	114	112	116	群馬 2%
5ヵ年平均		8,118	100	102	102	97	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
3年見通し		7,600	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、青森からの入荷が中心となる。北海道は産地により低温による生育遅れが懸念されたが問題ない見込み。青森は生育順調で肥大も進み、安定した入荷を見込むも量が増えるのは下旬か。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。							
にんじん		28年	6,133	150	110	157	191
	29年	6,562	100	112	99	89	北海道 35%
	30年	5,886	145	118	156	161	千葉 12%
	元年	6,266	114	105	112	125	中国 5%
	2年	5,753	272	250	254	304	長崎 1%
	5ヵ年平均	6,120	154	137	153	171	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	5,900	130	120	130	140	
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	青森、北海道、千葉からの入荷がほとんどを占める。一部に低温による生育遅れがみられるも全体的には概ね順調な生育。主力青森がピークとなり出回り量に不足はないが、若干の端境が心配される。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。						

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	28年	1,673	53	54	59	56	長野 100%	
	29年	1,808	52	47	52	58		
	30年	1,616	77	66	68	105		
	元年	2,080	66	50	65	88		
	2年	1,968	103	78	95	139		
	5ヵ年平均	1,829	71	59	68	90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	1,900	60	65	55	60		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野からほぼ全量を入荷する。産地の生育状況は順調で、安定した入荷を見込んでおり、販売も順調である。漬物・加工用の需要に期待している。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
	<p>長野からほぼ全量を入荷する。産地の生育状況は順調で、安定した入荷を見込んでおり、販売も順調である。漬物・加工用の需要に期待している。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
	キャベツ	28年	4,136	77	75	82	80	群馬 45% 長野 35% 茨城 10% 北海道 4% 愛知 3%
29年		4,486	64	68	61	66		
30年		3,821	102	91	87	130		
元年		3,899	76	73	75	81		
2年		3,925	101	89	88	129		
5ヵ年平均		4,053	83	79	78	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
3年見通し		3,800	80	90	80	70		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。愛知、茨城は切り上がりが早まる予想で、入荷終了が近い。群馬、長野は順調な生育で、7月中旬から入荷量増の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						
<p>群馬、長野を中心に、茨城などから入荷する。愛知、茨城は切り上がりが早まる予想で、入荷終了が近い。群馬、長野は順調な生育で、7月中旬から入荷量増の見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>								
ほうれんそう		28年	182	701	714	748	673	岐阜 90% 茨城 5% 長野 2% 愛知 2% 静岡 2%
	29年	186	637	592	689	656		
	30年	161	725	655	744	841		
	元年	231	568	525	624	582		
	2年	204	759	698	745	847		
	5ヵ年平均	193	673	632	706	713	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	200	650	650	750	600		
	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>岐阜を中心に入荷する。岐阜の高冷地は生育順調で、平年並の入荷が見込まれる。7月下旬頃からは夏品種に切り替わり、入荷量は徐々に増加していく見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
	<p>岐阜を中心に入荷する。岐阜の高冷地は生育順調で、平年並の入荷が見込まれる。7月下旬頃からは夏品種に切り替わり、入荷量は徐々に増加していく見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

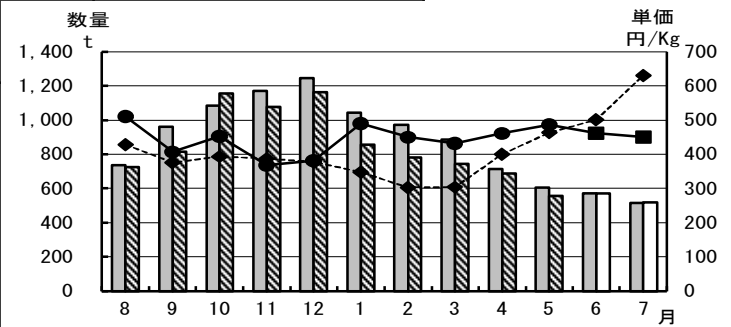
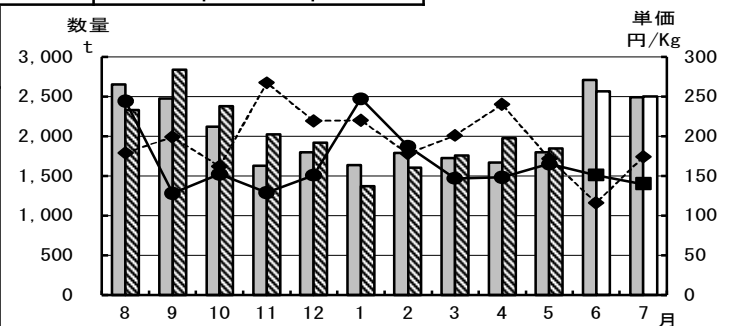
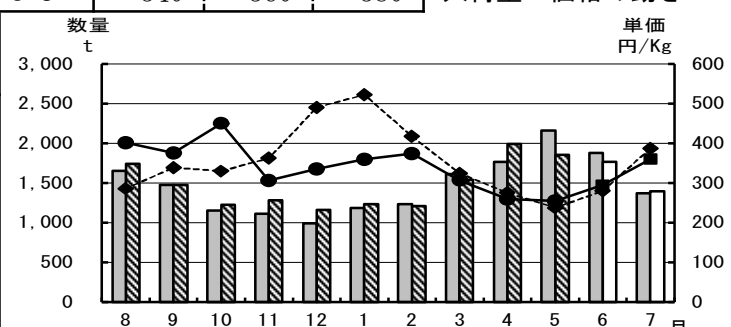
単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほういさ	28年	5,783	54	54	53	長野	83%
	29年	6,679	55	53	60	群馬	15%
	30年	6,736	75	61	108	茨城	1%
	元年	7,566	66	64	86	北海道	1%
	2年	7,094	98	90	129		
	5ヵ年平均	6,772	70	58	65	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	7,000	65	70	65		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野、群馬からの入荷がほとんどを占める。主力の長野で4月の低温による生育遅れがみられる地域があるものの、群馬ともに生育は概ね順調で肥大も良好と見込まれる。中旬にはピークを迎えるか。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
キヤベツ	28年	16,232	73	75	70	群馬	68%
	29年	16,597	59	57	54	岩手	14%
	30年	15,476	102	85	137	長野	6%
	元年	16,630	72	72	72	茨城	5%
	2年	16,749	99	87	123	千葉	3%
	5ヵ年平均	16,337	81	77	74	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	16,600	85	90	85		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>群馬を中心に岩手などからの入荷となる。群馬は適度な降雨など天候に恵まれて生育は順調で収穫のピーク期に入る。岩手も生育良好で、中旬にはピークに入ると見込まれる。総じて潤沢な出回りを見込む。 入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	28年	923	618	640	612	群馬	31%
	29年	958	565	459	643	茨城	27%
	30年	803	677	542	724	栃木	23%
	元年	976	547	482	622	岩手	6%
	2年	914	714	588	752	岐阜	5%
	5ヵ年平均	915	621	541	668	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	3年見通し	930	590	520	600		
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>群馬など関東高冷地を中心に、岩手や岐阜からの入荷となる。各産地とも生育は概ね順調。天候の影響で病害の多発が懸念されるが現状では問題とならない程度。不足感のない出回りが見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

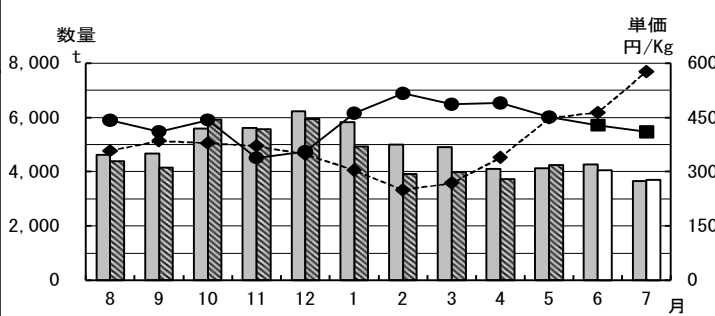
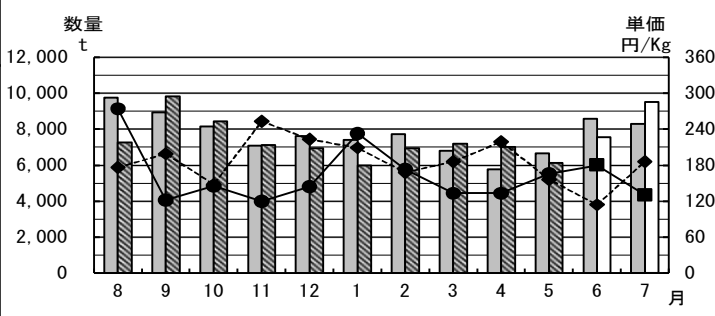
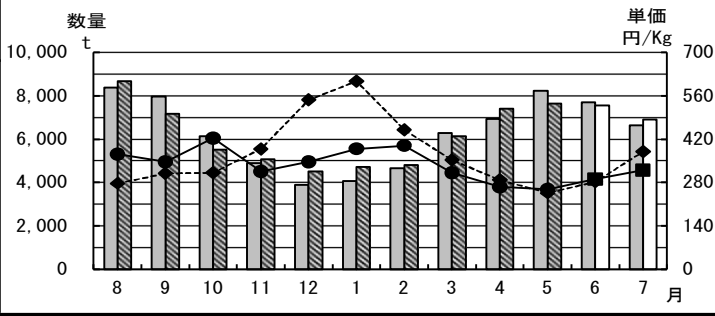
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	589	463	470	517	451	大分 31%
	29年	589	404	424	407	393	愛知 12%
	30年	524	461	433	503	450	茨城 11%
	元年	585	418	418	422	420	北海道 11%
	2年	516	631	557	672	662	静岡 6%
	5ヵ年平均	561	472	459	500	471	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	520	450	460	450	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>大分、愛知、茨城、北海道などから入荷する。各産地、ほぼ平年並の入荷を予定している。大分、静岡は7月末頃入荷終了、北海道は7月末頃から入荷始めの見込み。入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
しそ	28年	2,384	134	139	146	133	長野 99%
	29年	2,478	122	111	126	131	
	30年	2,687	156	122	137	211	
	元年	2,537	135	114	132	165	
	2年	2,493	174	123	157	252	
	5ヵ年平均	2,516	144	122	139	179	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,500	140	120	140	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野からほぼ全量を入荷する。長野産は標高1,300mの高冷地のものが中心となる。産地の生育状況は良好で、7月は安定した入荷を見込む。L玉中心の入荷予想。入荷量は前年並、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
きゅうり	28年	1,316	325	354	347	280	長野 52%
	29年	1,434	269	257	282	268	北海道 22%
	30年	1,438	350	291	390	363	愛知 4%
	元年	1,397	309	286	351	288	群馬 4%
	2年	1,373	387	345	375	433	埼玉 3%
	5ヵ年平均	1,392	328	306	349	326	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,400	360	340	360	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>長野、北海道を中心に入荷する。7月上旬は入荷量が少なく単価高の見込み。中～下旬にかけて夏秋産地である長野からの入荷が増加してくる予想。入荷量は前年並、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							



東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	28年	4,263	450	477	504	384	茨城 46%
	29年	4,155	410	475	390	371	千葉 15%
	30年	3,978	413	382	430	409	中国 7%
	元年	4,181	402	426	431	348	北海道 4%
	2年	3,652	577	536	631	566	秋田 4%
	5ヵ年平均	4,046	447	458	474	412	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	3,700	410	420	410	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に千葉などからの入荷となる。茨城は気温高と適度な降雨により生育は前進傾向で出荷は前倒しとなる。千葉も同様。中旬以降は北海道、東北産地からの入荷量が増え、相場は軟化する。入荷量は少なかった前年並となり、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							
し	28年	10,020	130	131	136	123	長野 86%
	29年	9,867	110	97	114	119	群馬 11%
	30年	9,795	149	107	127	218	岩手 1%
	元年	9,123	127	102	120	163	北海道 1%
	2年	8,306	186	117	164	289	千葉 1%
	5ヵ年平均	9,422	139	111	131	179	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	9,500	130	100	130	160	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>長野を中心に群馬などからの入荷となる。主力の長野は生育良好。小玉傾向は改善され、入荷ピークとなる見込み。群馬も順調な生育で作柄良好であり、潤沢な入荷が見込まれる。入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
							
きゅうり	28年	6,835	324	366	355	262	福島 40%
	29年	7,255	248	241	262	241	岩手 13%
	30年	7,448	355	312	441	323	秋田 10%
	元年	6,595	320	306	439	236	群馬 7%
	2年	6,625	380	339	380	412	山形 6%
	5ヵ年平均	6,952	325	312	375	294	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,900	320	330	320	310	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>福島、岩手など東北産地からの入荷に切り替わる。生育順調な産地が多いものの、岩手では生育遅れがみられる産地がある。中旬には東北各産地からの入荷が本格化し、下旬に向け増量していく見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
							

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	889	318	315	320	321	愛知 30%
	29年	961	264	270	252	275	宮崎 18%
	30年	874	322	312	331	331	徳島 16%
	元年	922	329	289	365	354	山梨 15%
	2年	848	405	353	397	476	群馬 5%
	5ヵ年平均	899	326	307	331	349	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	850	325	320	320	330	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
愛知を中心に宮崎、徳島などから入荷する。愛知の長なすは、梅雨の影響で入荷が若干遅れるが、入荷量は平年並となる見込み。宮崎は入荷減の見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
ト マ ト	28年	1,308	335	330	349	333	岐阜 36%
	29年	1,602	261	254	255	272	愛知 29%
	30年	1,639	313	271	307	358	北海道 19%
	元年	1,505	290	258	299	314	三重 5%
	2年	1,283	366	355	354	385	熊本 5%
	5ヵ年平均	1,468	310	290	310	330	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,300	300	300	300	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
岐阜、愛知、北海道を中心に入荷する。夏秋産地の岐阜、北海道は順調な入荷が見込まれる。作付面積は平年並で、7月10日前後に入荷のピークを迎える予想。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
ミ ニ ト マ ト	28年	384	701	623	786	715	北海道 51%
	29年	497	602	585	624	596	愛知 19%
	30年	409	720	655	712	789	茨城 13%
	元年	509	592	565	615	603	熊本 8%
	2年	473	689	575	719	750	長野 4%
	5ヵ年平均	454	656	597	685	685	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	450	650	600	700	650	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道を中心に愛知、茨城などから入荷する。4月下旬～5月上旬の低温の影響を受け、夏秋作の1、2段目の着花が悪く、7月上旬は入荷量が少ない予想。また、5月の長雨による品質低下が懸念される。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をやや下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	28年	4,273	372	393	378	348	群馬 35%
	29年	5,077	288	314	280	273	茨城 20%
	30年	5,111	345	343	365	328	栃木 20%
	元年	3,908	402	335	501	383	高知 4%
	2年	3,793	460	408	447	532	熊本 3%
	5ヵ年平均	4,432	367	356	386	364	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	3,800	430	430	420	440	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、茨城、栃木など関東産地からの入荷が中心となる。低温や曇雨天の影響は解消し、生育は概ね順調の見込み。主力群馬での作型の切替りはスムーズに進む予想。全体的に下旬に向けて量を増やすか。入荷量は少なかった前年並となり、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
ト マ ト	28年	7,861	322	301	333	332	北海道 17%
	29年	8,742	272	285	274	259	青森 14%
	30年	8,158	333	303	339	356	岩手 12%
	元年	7,312	308	286	331	310	栃木 9%
	2年	6,910	363	376	337	374	福島 7%
	5ヵ年平均	7,797	318	308	321	324	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	7,300	330	360	330	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>東北、北海道からの入荷が本格化し、栃木と併せて入荷の中心となる。栃木は中旬までとなり、北海道や東北は低温により生育の遅れる産地があるものの多くは回復傾向。中旬以降、荷は増量していく見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>					
ミ ニ ト マ ト	28年	1,606	658	560	718	687	茨城 27%
	29年	1,952	554	533	574	557	青森 14%
	30年	1,769	674	643	646	731	北海道 13%
	元年	2,019	570	537	576	593	福島 8%
	2年	1,897	651	592	672	684	熊本 8%
	5ヵ年平均	1,849	618	572	633	647	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,900	570	580	560	570	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、青森、北海道などからの入荷となる。茨城は生育が前進しており、ピークは7月上旬～中旬か。出荷が本格化していく東北、北海道の各産地の生育は概ね順調で、安定した入荷が見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	408	421	378	445	422	茨城 36%
	29年	430	356	351	370	368	北海道 20%
	30年	311	515	481	507	523	宮崎 18%
	元年	459	437	402	432	449	高知 9%
	2年	407	579	497	585	600	青森 7%
	5ヵ年平均	403	457	418	464	468	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	400	450	520	450	400	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
茨城、北海道、宮崎を中心に入荷する。5月の天候不順により7月上旬は入荷量が少なく、中～下旬から安定した入荷となる予想。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
ばれいしょ	28年	1,403	188	214	204	182	静岡 33%
	29年	1,270	149	152	170	135	北海道 27%
	30年	1,685	80	67	84	91	茨城 16%
	元年	1,523	173	165	178	173	長崎 11%
	2年	1,347	395	404	418	380	青森 9%
	5ヵ年平均	1,446	191	194	204	188	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,400	180	180	180	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
静岡、北海道を中心に入荷する。静岡はL玉中心で7月中旬頃に入荷終了予定。北海道は天候不順により生育が4～5日遅れており、下旬から販売の見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。							
たまねぎ	28年	3,516	159	162	178	156	兵庫 73%
	29年	4,088	85	90	88	81	北海道 11%
	30年	4,532	88	80	99	93	富山 6%
	元年	4,739	81	81	84	79	愛知 5%
	2年	4,993	126	112	134	129	長野 3%
	5ヵ年平均	4,374	106	103	114	106	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,800	125	125	125	125	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
兵庫を中心に北海道、富山などから入荷する。兵庫の淡路島は作柄良好で、2LやL玉を中心に入荷する。富山は6月下～7月上旬より入荷スタートとなる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

6月30日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	28年	1,792	416	378	455	414	茨城 53%
	29年	1,968	358	356	340	377	岩手 28%
	30年	1,789	492	500	485	491	福島 6%
	元年	1,880	459	396	488	504	宮崎 4%
	2年	1,970	607	544	615	665	青森 3%
	5ヵ年平均	1,880	467	435	477	492	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	1,900	430	450	420	420	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、岩手からの入荷が中心となる。主力の茨城は生育順調で着果も良好だが、ピークを過ぎ減少していく。岩手は4月の低温による生育遅れから回復し、最盛期に入って徐々に増量する見込み。 入荷量は前年をやや下回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>					
白菜	28年	5,613	173	180	174	164	茨城 34%
	29年	5,506	136	152	138	117	北海道 25%
	30年	5,447	73	71	74	74	千葉 22%
	元年	5,068	173	166	180	174	静岡 10%
	2年	4,502	336	344	332	333	長崎 6%
	5ヵ年平均	5,227	172	177	174	166	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	4,900	135	130	140	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、北海道、千葉などからの入荷となる。茨城は生育順調、千葉は前進化も、ともに平年並の入荷量を見込む。静岡は生育順調で掘り取り作業が早く進む。北海道は序盤。総じて出回りに不足感はないか。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>					
たまねぎ	28年	8,086	171	154	178	180	兵庫 44%
	29年	8,876	94	102	95	87	佐賀 27%
	30年	8,958	94	88	92	101	北海道 4%
	元年	9,336	87	84	86	92	香川 4%
	2年	10,025	137	114	138	157	富山 4%
	5ヵ年平均	9,056	116	107	117	123	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	10,000	110	105	110	115	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>兵庫、佐賀からの入荷が中心となる。兵庫、佐賀ともに天候に恵まれて順調に生育し肥大も良好。収穫作業は順調に進み、大玉傾向で2L比率が高い。総じて潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は多かった前年並となり、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

※アールスメロンの旬別単価は、データが存在しないため表示しない。

6月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	8,411	430	385	391	421	愛知 17%
	29年	7,766	443	405	424	461	フィリピン 14%
	30年	8,192	444	435	439	461	長野 12%
	元年	7,741	433	442	437	456	石川 9%
	2年	7,793	448	467	442	398	山形 7%
	5ヵ年平均	7,981	440	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	6,300	500	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	みかん、もも、メロン、すいかなどを中心に入荷する。各品目、生育は前進傾向である。ももは長野の露地ものが7月上旬より入荷予定。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
アーメロン	28年	197	668	—	—	—	愛知 61%
	29年	202	641	—	—	—	静岡 32%
	30年	164	656	—	—	—	高知 5%
	元年	160	629	—	—	—	茨城 2%
	2年	187	549	—	—	—	
	5ヵ年平均	182	629	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	170	600	—	—	—	
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知、静岡を中心に入荷する。前年は愛知の生育が大幅に前進したが、本年は前年ほどではない。7月中旬までは中元ギフトの需要が見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。						
すいか	28年	2,603	192	172	183	224	長野 20%
	29年	2,343	195	179	190	224	フィリピン 20%
	30年	2,713	217	211	216	225	石川 18%
	元年	2,664	168	197	163	149	愛知 16%
	2年	3,876	182	216	162	182	新潟 9%
	5ヵ年平均	2,840	190	197	181	199	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	2,600	185	200	180	180	
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	長野、フィリピン、石川などから入荷する。現状は小玉傾向だが、梅雨入りが早かったため大玉になる可能性がある。長雨、日照不足等の影響で、今後数量不足や品質低下が懸念される。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は前年並となる見込み。						

東京都中央卸売市場

6月30日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	28年	34,883	419	407	429	420	山梨 16%
	29年	32,851	467	467	461	473	山形 15%
	30年	33,742	465	488	465	448	千葉 10%
	元年	31,291	453	496	453	413	新潟 7%
	2年	30,480	482	521	474	457	フィリピン 7%
	5ヵ年平均	32,649	457	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	30,500	480	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	すいか、もも、メロンなどを中心に入荷する。ももなど出荷時期が前進している品目もあり、果実全体の入荷量は少なかった前年並みか。気温の上昇により果実の消費が期待されるほか、ギフト需要もあるため、価格は維持される見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。						
アーメロン	28年	582	740	777	780	649	静岡 48%
	29年	573	767	805	770	713	愛知 14%
	30年	491	788	850	772	733	茨城 10%
	元年	521	742	830	762	620	高知 8%
	2年	525	707	766	720	630	千葉 7%
	5ヵ年平均	538	749	806	761	669	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	520	740	810	740	670	
メロン	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	静岡、茨城を中心に入荷する。中心となる静岡は生育順調で外観、内容ともに良く上位等級品の比率も高い。前年並の入荷量を見込む。茨城は旧盆需要向けの出荷で後半に向けて入荷増の見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。						
すいか	28年	12,509	194	176	192	206	山形 21%
	29年	11,336	222	205	221	240	新潟 19%
	30年	12,458	231	249	235	215	千葉 17%
	元年	10,875	170	202	161	155	神奈川 12%
	2年	11,590	186	218	171	173	茨城 10%
	5ヵ年平均	11,754	201	210	196	198	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	3年見通し	11,600	200	210	195	195	
いか	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	上旬は新潟、千葉産が潤沢に入荷し、中旬は長野、下旬には山形がピークを迎える。各産地生育は順調で、入荷量、価格は例年並になる見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。						

# 切花・鉢花の7月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 6月30日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	28年	1,772	49	
		29年	1,781	38	
		30年	1,377	44	
		元年	2,005	35	
		2年	1,749	45	
5カ年平均		1,737	42		
3年見通し		1,750	40		
概要	愛知、三重、長野から入荷する。上旬は新盆需要の兼ね合いもあり、入荷数量は増加し、引き合いも出てくると見込まれる。中旬は一旦落ち着き、下旬以降旧盆に向けて数量が伸びてくる。				
小 ぎ	実績	28年	1,739	31	
		29年	1,549	27	
		30年	1,491	32	
		元年	1,858	21	
		2年	1,672	31	
5カ年平均		1,662	28		
3年見通し		1,700	30		
概要	愛知、埼玉、奈良から入荷する。中旬以降に長野もスタートする。前半は新盆需要もあり、動きは良さそう。中旬から下旬にかけては数量が伸びてくるにつれ、動きが悪くなりそう。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	28年	1,060	42	
		29年	1,090	35	
		30年	1,113	42	
		元年	1,070	41	
		2年	1,005	45	
5カ年平均		1,068	41		
3年見通し		1,050	45		
概要	長野、北海道を中心に入荷する。1、2週目に少し山ができるが、その後はなだらかに入荷の見込み。				
か す み	実績	28年	126	88	
		29年	120	80	
		30年	100	107	
		元年	129	85	
		2年	106	95	
5カ年平均		116	90		
3年見通し		120	90		
概要	福島、長野から入荷する。上旬は据置株のピークとなり入荷が多いが、七夕向けの注文があり、枝カスミは少なくなりそう。				



単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き	
	実績等				数量 千本	単価 円/本
ゆり	実績	28年	325	156		
		29年	342	131		
		30年	293	148		
		元年	334	144		
		2年	302	152		
		5カ年平均	319	146		
	3年見通し	320	145			
概要	オリエンタルは新潟、北海道、岐阜、埼玉から、LAユリは新潟、埼玉から入荷する。鉄砲は兵庫、長野、愛媛からの入荷となる。入荷量は全般的に多くなる見込み。					
洋らん	実績	28年	314	99		
		29年	296	92		
		30年	340	83		
		元年	333	92		
		2年	235	100		
		5カ年平均	304	93		
	3年見通し	250	95			
概要	愛知、静岡、鹿児島の商品や輸入物が入荷する。台湾のオンシジウムは徐々に減少し、タイのデンファレ等も昨年より入荷は減少する見込み。					
ばら	実績	28年	770	44		
		29年	707	42		
		30年	665	50		
		元年	665	45		
		2年	585	54		
		5カ年平均	678	47		
	3年見通し	600	52			
概要	愛知、岐阜、和歌山、長野、山形を中心に入荷する。伊勢産は7月7日で一旦夏の株休めに入る。入荷は前年並が見込まれる。					
枝もの	実績	28年	1,610	46		
		29年	1,542	48		
		30年	1,423	47		
		元年	1,570	56		
		2年	1,490	58		
		5カ年平均	1,527	51		
	3年見通し	1,500	56			
概要	7月7日七夕に向け、笹、桔梗、シペラス、ルリ玉、ベッチーズブルー、エリンジウムなどを中心に入荷する。新盆向需要で法月の入荷も始まる。ヒペリカムは国内産の入荷ピークを向かえる。					

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ア ン ス リ ウ ム	実 績	28年	21,512	1,136	
		29年	20,548	1,091	
		30年	21,592	1,078	
		元年	23,440	983	
		2年	25,748	1,020	
	5カ年平均		22,568	1,058	
	3年見通し		25,000	1,000	
概要	<p>入荷量は前年並か。作付け内容に大きな変更はなく、6号MIXが主体となる。7号以上は赤・ピンク・白系が主力の色目となる。前月に続き、白の引き合いが強くなる見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(90.5%)、2位長崎(6.2%)、3位徳島(2.0%)となっている。</p>				
フ ア レ ノ プ シ ス	実 績	28年	23,506	3,435	
		29年	27,379	3,567	
		30年	27,245	3,082	
		元年	36,823	2,504	
		2年	29,373	3,215	
	5カ年平均		28,865	3,111	
	3年見通し		29,000	3,255	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。昨年からの新型コロナウイルスの影響により苗の輸入量を減らしている。大輪よりミディーの方が入荷量は減る見込み。気温も上がり開花スピードも早いため、固めの出荷でお願いしたい（6分咲き程度）。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースで1位愛知(53.9%)、2位千葉(11.7%)、3位静岡(7.6%)となっている。</p>				
バ ラ 及 び ミ ニ バ ラ	実 績	28年	11,294	116	
		29年	14,260	121	
		30年	11,825	79	
		元年	11,990	117	
		2年	13,446	121	
	5カ年平均		12,563	111	
	3年見通し		12,000	117	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。例年通り3～3.5号の小鉢中心の入荷となる。鉢花全体に入荷減の時期になるが花持ちなどの問題から販売も厳しく安価で推移する見込み。岐阜・愛知が入荷のメインになる見込み。</p> <p>前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位岐阜(55.1%)、2位愛媛(27.8%)、3位群馬(10.6%)となっている。</p>				

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
オンシジウム	実績	28年	1,837	940	
		29年	2,362	535	
		30年	1,446	633	
		元年	1,806	554	
		2年	1,078	701	
	5カ年平均		1,706	664	
	3年見通し		1,500	700	
概要	<p>愛知は総数で前年並の入荷量の見込み。長崎が今年はほぼ無し、高知に関してもほぼ無しでトータルでの入荷量は1割～2割減と予想される。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(76.6%)、2位長崎(9.8%)、3位高知(9.5%)となっている。</p>				
スパティファイラム	実績	28年	5,201	417	
		29年	2,526	623	
		30年	4,823	381	
		元年	5,880	279	
		2年	6,083	314	
	5カ年平均		4,903	373	
	3年見通し		5,900	320	
概要	<p>年々生産量が減しているため、入荷量は前年より減少か。一方、コロナ禍での観葉植物ブームに乗り、需要も高まる見込みで、単価も良く平均単価はUPすると思われる。特に3号は生産量減、4号での生産・出荷がメインであるが、高単価が取れる5号以上の生産は前年並み。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重(39.2%)、2位愛知(34.9%)、3位岐阜(19.5%)となっている。</p>				
ドラセナ	実績	28年	22,419	669	
		29年	22,821	754	
		30年	19,351	797	
		元年	22,575	577	
		2年	20,018	872	
	5カ年平均		21,437	729	
	3年見通し		19,000	895	
概要	<p>先月に引き続き、ユッカ・マッサン等原木類、各サイズの品薄が続く予想。輸入原木の状態が悪いという深刻な問題があり、7～10号のB品の入荷が中心になっている。サイズ別では特に4号の品薄状態が続く。 前年7月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知(61.2%)、2位三重(13.1%)、3位沖縄(5.9%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.577  
2021年7月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434